

TOPIC

“シン・シリコンアイランド”

九州は半導体産業において高い生産力を誇り、「シリコンアイランド」と呼ばれてきました。

九州エリアにおける半導体工場の投資計画が増加しており、加えてデータセンター進出の加速も期待されることから、電力需要は今後大きく増加する可能性があります。

九州の主な半導体・データセンター関連プロジェクト

九州は業界トップレベルの電気料金水準と非化石電源比率を誇ります。これらを背景として、九州には半導体工場が多数集積しており、2024年には台湾積体回路製造(TSMC)が熊本県に工場を開設するなど、半導体産業が活性化しています。今後の半導体工場の建設計画も多く、更なる経済波及効果が期待されます。

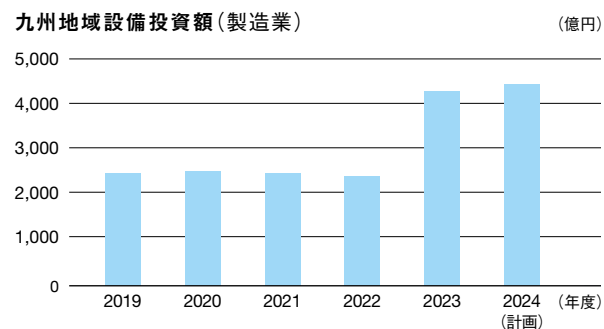
また、福岡県北九州市・糸島市等での大規模データセンター新設計画も進行しています。政府はデータセンターの地方分散を後押ししており、今後九州における設備投資が加速する可能性があります。

九州における企業の主な設備投資計画・立地協定

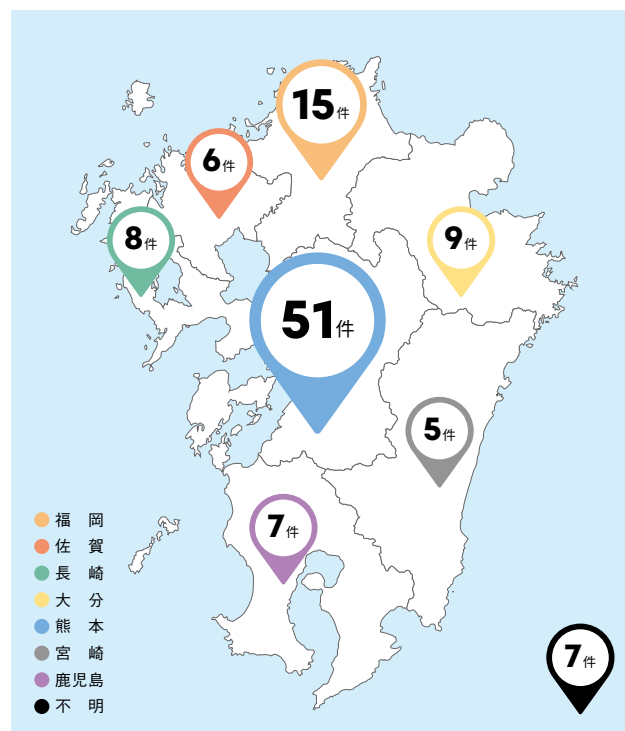
設備投資件数：**108**件 投資額：**4兆7,500**億円超※1

福岡	熊本
・三菱ケミカル	・ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング
佐賀	・日本通運
・SUMCO	・ルネサスエレクトロニクス
長崎	鹿児島
・SUMCO TECHXIV	・京セラ 川内工場(新工場建設)
宮崎	・京セラ 国分工場(新工場建設)
・ローム・ラピスセミコンダクタ	

※1 九州経済産業局作成。2021年4月～2024年9月末時点。また、図は九州経済産業局、(一社)九州半導体・デジタルイノベーション協議会資料をもとに当社作成



出所：日本政策投資銀行「九州地域設備投資計画調査」



電力需要の展望

2025年2月に策定された第7次エネルギー基本計画(以下、エネ基)では、2040年度断面で電力需要が1.0～1.2倍程度(全国・2022年度比)になるとされています※2。

また、電力広域的運営推進機関(以下、広域機関)の2025年度需要想定においては、九州エリアの電力需要は2034年度断面で3%程度増加する見通し(2025年度比)※3が示されています。ただし、九州エリアにおいては、今後も半導体産業やデータセンター分野で大規模な設備投資が相次ぐ見通しであり、広域機関の想定以上に需要が増加する可能性があります。今後の立地進展や設備投資計画の動向を総合的に勘案し、当社グループの想定では2034年度時点で1.2～1.3倍程度に増加(2025年度比)※4する可能性があると考えています。

こうした電力需要の増加をチャンスと捉え、エリアの安定供給と地域経済の持続的な発展に貢献するとともに、収益拡大や企業価値向上に向けて着実に取組みを進めていきます。

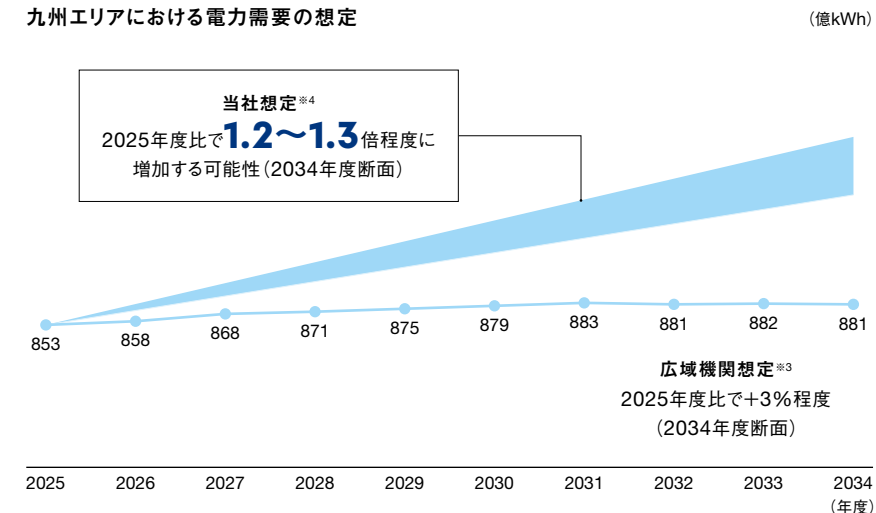
電力需要の想定増加量

全国(エネ基想定):
1.0~1.2倍
(2022年度比、2040年度断面)

全国以上に九州の電力需要は増加見込み

九州(当社想定):
1.2~1.3倍
(2025年度比、2034年度断面)

九州エリアにおける電力需要の想定



※2 出所：第7次エネルギー基本計画の概要

※3 電力広域的運営推進機関「全国及び供給区域ごとの需要想定(2025年度)」をもとに作成。

※4 広域機関想定及び当社独自調査をもとに試算。なお、現時点の情報に基づく想定であり、将来の結果を保証するものではないことに留意